



五中だより

貝塚市立第五中学校

校訓《勤勉・自律・敬愛》

令和3年12月 第9号

校長室から ～「仲間を考える会」から～

今週月曜日に、「仲間を考える会」がありました。これまで、講師に来ていただいた方からお話を聞くということがほとんどでしたが、今年は、人権ボランティア委員会のメンバーが自分たちで考えたことからみんなに呼びかける形で行いました。おとなの講師はいません。全校生徒の前で進めるのは生徒たちです。

考えるきっかけにしたのは、今年北海道で中学生が真冬の公園でなくなっているのが発見された事件、背景にいじめがあったことで大きく報道されていた事件です。この事件から、自分たちは何を考えるのか、こんなことが起こらないために自分たちができることは何なのか、という問いかけがありました。



全校生徒が集まった中で、何人かの生徒が手を挙げて発言してくれました。人権ボランティア委員会の生徒も、考えてきた自分たちの意見や提案を伝えました。1年生から3年生までそれぞれの言葉で、友達との関わりについて自分の経験してきたことや感じてきたことを語ってくれました。聞いていた人も、自分と人との関係について、改めて考えたのではと思います。

会の最後に委員会のメンバーから提案されたのは、「おせっかいっていいやん」ということでした。隣にいる仲間に、声をかけたり、話を聞いたり、そんなことからやっといこうという提案です。もちろん、これは、相手が嫌がる「おせっかい」のことではなく、相手を心配して何とか力になりたいという気持ちがこもった「おせっかい」のことです。

落ち込んでいるときそういう「おせっかい」に助けられた経験ってあるなあと思いながら、私は後ろで話を聞いていました。

話を聞きながら、思い出したことがあります。高校の卒業を控えたころ、友達何人かと話しているとき、ふいに泣き出した子がいました。横にいた私や他の子は突然のことに驚いたのですが、すぐ「なんでもないよ」と言ったその子に、何があったのかは聞けずに終わりました。「どうしたん？」という言葉がでなかった不器用な自分を感じ、ほったらかしにせず何があったのか聞けばよかったのではと悶々としていたことが、今も記憶に残っています。その子とは、卒業後も何度か会ったり遠く離れてからも年賀状のやり取りをしたりと、つきあいは続いています。その時のことを聞いたことはありません。

きっとあのとき、彼女は自分で自分のつらかったことを乗り越えたのだと思います。でももし私が、「何かあったん？」と声をかけていたら、少しは力になれたかもしれません。その後も人との関係をつくる中で、「気持ちはきちんと言わないと伝わらない」ということを痛感するたびに、あの時のことを思い出します。たいせつな友達に、「おせっかい」ができなかった思い出です。

だから、「おせっかいっていいやん」という今回の提案を、とてもすてきだなと思いました。あたたかい「おせっかい」がいっぱいの学校を一緒につくっていきたいと思います。

～生徒指導より～

さあ2学期も終わりが見えてきました。2021年、お疲れさまでした。

3年生、いよいよ中学校生活ラストですね。寂しいです。みんなと行った修学旅行は本当に楽しかったです。次の進路に向けてしっかり準備してくださいね。最高の笑顔で卒業しよう！

2年生、明るく元気で創造力のある君たちが次の五中の顔です。3学期は3年生に向けての0学期です。やるべきことは何か、課題を見つけてさらなる高みを目指そう！！

1年生、ようやく落ち着いてきたかな！？ノリの良ささとテンションの高さに毎回の授業が盛り上がりすぎて楽しい！でも、切り替えを早くして、もっと盛り上がりましょう！！

冬休み、コロナもまだまだ油断できません！「体調管理、手洗いうがい、三密を避ける」そして、規則正しい生活習慣！！気をつけましょう！！



～生徒会より～

貝塚市生徒会交流会に参加！

12月4日（土）に貝塚市内の五中学校の生徒会、約50名が集まる生徒会交流会がありました。当日は、五中が司会進行を行い、SDGsの16「平和と公正をすべての人に」について考えました。「いじめのない学校をつくるために私たちは何が出来るか」ということをグループや全体交流会で意見を出し合い、考えを深め合いました。各校生徒会の考えや取り組みを交流し、内容の濃い生徒会交流会となりました。



小6クラブ体験実施！

先日小学6年生の部活動体験がありました。各部活動のキャプテンが、活動場所に小学生を引率していき、丁寧に教えている姿が各部で見られました！小学生も体験後の感想では、全員が「楽しかった！もっとしたかった！」と挙手し、中学校の部活動というものがイメージ出来て、五中の楽しさを感じて終わることができました。

